

男

二年

画数 7
筆順

田 男 男
丹・ナン
おとこ

成り立ち



↓ 田 ↓ 男 ↓ 男 ↓ 男

田んぼの「田(年64)」と「力(年79)」とをくみあわせてつくった字で、「田んぼにでて、力をだしてはたらくおとこ」をあらわした字です。

「おとこ」といういみの字ですが、とくに「男の子」また、「むすこ」といういみにつかうことがあります。

〔漢音はダンで、呉音はナンである。普通の言葉は漢音で読むが、仏教で使う言葉や古い言葉には、呉音で読む習慣があるので、それは呉音でナンと読まなければならない。〕

使い方

▽あの人は「男手」でそだったせいかな「男勝り」で、なみの「男性」ではとてもかたないません。
▽長男はからだはちいさいけれども、「男気」があつてもだちにたよりにされています。

熟語例

▽男手(「男おやの手」といういみ。ふつうは「女おやの手」でそだてられます。また「男のふであと」のいみ。また「漢字」のいみにつかいます。「かな」のことを「女手」といいます。)

▽男気(「男らしい気もち」ということで、「つよきをくじき、よわきをたすける」「ぎきょうしん」のことをいいます。)

▽男勝り(女で男に勝った気性をもっていること。)

▽長男(男の子のなかで、いちばんさきにうまれた子のこと。二ばんめを「次男」、三ばんめを「三男」といいます。五ばんめにうまれても、うえの子がみんな女の子なら「長男」です。)

▽男装(女が男の服装をすること。たからづかのかげぎでは、男やくの女性が「男装」します。)

竹

二年

画数 6
筆順

ノケ竹 竹
チク
たけ

成り立ち



「たけのは(ささ)」のかたちをあらわした字です。「たけ」ということばをあらわしました。

かみのなかつたむかしは、竹のふだに字をかきました。これを「簡(年853)」といいました。この「簡」のいみにつかわれます。

また、むかしは、「箱(年395)」やそのほか、いろいろなものにつかわれましたので、「竹」のついた字がたくさんあります。例 笛、符、籠、答、算。

使い方

▽竹をわったようなせいしつということはどんなせいしつでしょうか。竹はまっすぐにわれるから、すなおということでしょうか。それとも、われはじめたらおわりまですっきりといっぺんにわれるので、さっぱりと明るいせいしつのことでしょうか。

熟語例

▽竹藪(「竹のやぶ」といういみのことば。竹がいっぱい生えているところのこと。)

▽竹垣(竹で作ったかきねのこと。)

▽竹馬(むかし、子どもがささのはのついた竹にまたがってあそんだものこと。馬に見たてたので竹馬といいました。)

▽竹刀(「竹の刀」といういみのことばで、けんどうでつかう「しない」のことをいいます。)

▽竹林(「竹の林」といういみのことばで、「たけやぶ」のことです。)

▽竹馬の友(竹馬にのっていっしょにあそんだ友だちといういみのことばで、「おさなじみの友だち」のことをいいます。)